



Release

フランクフルト・アム・マイン

2020年1月30日

ドイツ銀行、戦略的改革の進展継続を報告

CEO のクリスティアン・ゼーヴィングは、次のように述べています。「当行の新戦略は、牽引力をもって進行しています。2019年下半期において収益が安定化したことと一貫したコスト管理の双方が、2018年よりも良好な営業成績に貢献しました。顧客を対象とするビジネスは、当行全体において順調に進展しています。当行の資本基盤の厚さおよび13.6%の普通株式等 Tier 1 資本比率を有していることからすれば、当行は自己資本による改革の実施が可能であり、成長路線に復帰できると確信しています。」

2019年通年は、改革に関連する影響を全面的に受け、純損失を計上

- 税引前損失は、改革費用¹、のれんの減損および再編および退職費用の30億ユーロを含め、26億ユーロ
- 純損失は、改革に関連する繰延税金資産の評価調整額28億ユーロが加算され、53億ユーロ。この評価調整額による資本への重大な影響はありません
- 改革に関連する影響²の想定される累積額のうち70%が既に計上済み
- 普通株式等 Tier 1 (CET1) 資本比率は、キャピタル・リリース・ユニットがリスク・ウェイトド・アセットの削減を前倒しで進めたことを受け、2019年第3四半期の13.4%から13.6%に上昇

コア・バンク（中核となる継続ビジネス）：2019年において安定化し堅調に向かう

- 2019年通年の収益は、2%減少（報告ベース）し、特定収益項目³を除くと2018年とほぼ同水準
- 2019年通年の税引前利益（報告ベース）は5億4,300万ユーロ。特定収益項目、改革費用、のれんの減損ならびに再編および退職費用を除いた調整後税引前利益⁴は28億ユーロとなり、2018年から7%増加

2019年第4四半期の業績は、改革の一層の進展を反映

- 税引前損失は、改革費用ならびに再編および退職費用の11億ユーロを含め、13億ユーロ
- 改革費用および銀行税を除いた第4四半期の調整済コストは、8四半期連続で前年同四半期から減少
- コア・バンク：第4四半期の税引前損失は4億3,700万ユーロ。特定収益項目、改革費用ならびに再編および退職費用を除くと、4億6,500万ユーロの税引前利益
- キャピタル・リリース・ユニット：第4四半期において、リスク・ウェイトド・アセットを、560億ユーロから目標額を60億ユーロ下回る460億ユーロに削減しました。8億5,600万ユーロの税引前損失を計上しましたが、これは想定通り

コスト削減を着実に実施

- 2019 年通年の利息以外の費用は、改革費用 11 億ユーロ、のれんの減損 10 億ユーロ、ならびに再編および退職費用 8 億 500 万ユーロを含む 251 億ユーロ
- 2019 年通年の調整済コスト⁵は、改革費用および当行のプライム・ファイナンスのプラットフォームの BNP パリバへの譲渡に伴う第 4 四半期の費用⁶を除くと、目標に沿った 215 億ユーロ
- 当行グループの人員数は、2019 年において 4,100 人以上削減され、常勤相当で目標に沿った 87,597 人に減少

業績は改革の影響を反映、コア・バンクの調整後利益は増加

ドイツ銀行（銘柄コード XETRA:DBKGn.DB/NYSE:DB）は本日、改革戦略において 2019 年に予定されていた主要な要素すべてを達成したことを発表しました。2019 年の財務目標すべてについて、目標通りまたは目標を上回る結果となりました。

2019 年通年において、当行は 53 億ユーロの純損失を計上しましたが、これは改革関連の影響を全面的に受けたものです。当行はまた、2019 年 7 月 7 日に発表された改革戦略を進展させた結果、改革費用 11 億ユーロ、のれんの減損 10 億ユーロ、ならびに再編および退職費用 8 億 500 万ユーロを吸収し、通年で 26 億ユーロの税引前損失を計上しました。当行の通年の純損失には、さらに改革に関連する繰延税金資産の評価調整額 28 億ユーロが含まれています。これらの改革に関連する影響はすべて、おおむね想定通りでした。当行は 2019 年末現在、2019 年から 2022 年までの期間において改革戦略の成就に必要と推定されるコストの累計額のうち 70%を計上済みです。

2019 年第 4 四半期において、当行は 13 億ユーロの税引前損失を計上しましたが、これには 6 億 800 万ユーロの改革費用ならびに 4 億 7,300 万ユーロの再編および退職費用が含まれています。第 4 四半期においては、上記の影響および改革に関連する繰延税金資産の評価調整額約 4 億ユーロを反映して、15 億ユーロの純損失となりました。

コア・バンク：安定化し堅調に向かう

キャピタル・リリース・ユニットを含まないコア・バンクは、2019 年通年において、5 億 4,300 万ユーロの税引前利益を計上しました。改革費用 6 億 3,500 万ユーロ、のれんの減損 10 億ユーロ、再編および退職費用 6 億 4,900 万ユーロ、ならびに特定収益項目 1 億 800 万ユーロを調整したベースでは、コア・バンクの税引前利益は 28 億ユーロとなり、同様の調整を行った 2018 年の税引前利益から 7%増加したことになります。

コア・バンクの 2019 年通年の収益は、2018 年から 2%減少し、230 億ユーロとなりました。特定収益項目を除くと、金利環境が悪化し、2019 年においては世界経済の見通しの不透明感が増したにもかかわらず、収益は安定的でした。

2019 年第 4 四半期において、コア・バンクは 4 億 3,700 万ユーロの税引前損失を計上しました。改革費用、再編および退職費用ならびに特定収益項目を調整したベースでは、4 億 6,500 万ユーロの税引前利益となり、前年同四半期の税引前利益 7,800 万ユーロから増加したことになります。2019 年第 4 四半期の収益は、前年同四半期から 5%増加、特定収益項目を調整したベースでは 8%増加し、55 億ユーロでした。

キャピタル・リリース・ユニット：コストは想定通り、前倒しでレバレッジを解消

キャピタル・リリース・ユニットは、2019 年第 4 四半期において 8 億 5,600 万ユーロの税引前損失を計上、2019 年通年では 32 億ユーロの税引前損失を計上し、これは想定に沿った結果でした。こ

これらの損失は、事業撤退に伴う残存費用の計上と収益の不発生の双方を反映したものです。さらに、2019 年末現在、レバレッジ・エクスポージャーおよびリスク・ウェイト・アセットの削減が想定以上に進んでおり、第 3 および第 4 四半期の収益は、これらの削減に関連したヘッジ費用およびリスク低減費用の影響を受けました。

目標の達成：自己資本の強化

2019 年第 4 四半期の普通株式等 Tier 1 (CET1) 資本比率は 13.6%に改善され、2019 年末において 13%超とする直近の目標を十分に上回りました。

第 4 四半期において当行は、リスク・ウェイト・アセット (RWA) を為替レートの影響を調整したベースで 180 億ユーロ削減し、3,240 億ユーロとしました。この削減は、当行の CET1 比率に対して 73 ベーシスポイントのプラスの影響を与え、このプラスの影響は、主に第 4 四半期の純損失に関連する資本の減少から生じた CET1 比率に対する 47 ベーシスポイントのマイナスの影響を上回りました。

キャピタル・リリース・ユニットは、第 4 四半期において RWA を 100 億ユーロ削減して 460 億ユーロとし、2018 年末の 720 億ユーロからは 36%減少させました。これはキャピタル・リリース・ユニットが 2019 年末の RWA の目標額としていた 520 億ユーロを 60 億ユーロ下回るものとなりました。

当行は、2022 年までの改革戦略実施期間を通じて常に 12.5%以上の CET1 比率を維持するという目標の達成は確実であること、および既存の資本をもってこの改革を実施できることを再確認しました。

前倒しでレバレッジを削減

2019 年第 4 四半期において、当行はレバレッジ・エクスポージャーを 1,230 億ユーロ削減し、2019 年末現在のレバレッジ・エクスポージャーは 1 兆 1,680 億ユーロとなりました。これは主に、キャピタル・リリース・ユニットがレバレッジ・エクスポージャーの削減を進めたことによるもので、同ユニットはレバレッジ・エクスポージャーを 500 億ユーロ削減し、目標の約 1,400 億ユーロに対して 1,270 億ユーロに減少させました。これらの減少には、貸出金の増加により一部相殺されたものの、現金残高の減少、インベストメント・バンクにおける季節要因による減少および為替変動による減少も含まれています。

その結果、2019 年第 4 四半期において当行のレバレッジ比率は、段階的導入ベースで 4.3%、完全適用ベースでは 4.2%に改善し、2019 年末の目標である 4%を上回りました。当行は、レバレッジ比率を 2020 年末までに 4.5%、2022 年末までには約 5%に上昇させる目標を再確認しました。

目標の達成：コスト削減

2019 年通年の利息以外の費用は、2018 年から 7%増加し、251 億ユーロとなりました。調整済コストは、目標に沿って 2018 年から 6%減少し、215 億ユーロとなりました。この調整済コストには、改革費用と、2019 年第 4 四半期に発生した 1 億 200 万ユーロの費用（プライム・ファイナンスのプラットフォームの BNP パリバへの譲渡に伴う費用で、譲渡契約の条件に基づき返還される可能な費用）は含まれていません。かかる返還は 2019 年 12 月 1 日より実施可能となっており、このため、2019 年第 4 四半期に発生した上記の費用の約 3 分の 1 が、2019 年 12 月の収益に返還可能な費用として計上されています。2019 年第 4 四半期の利息以外の費用は 64 億ユーロとなり、改革費用を除く調整済コストは、前年同四半期の 54 億ユーロから減少し、51 億ユーロとなりました。これにより、改革費用を除く調整済コストは、銀行税を除いたベースでは前年同四半期との比較で 8 四半期連続で減少したことになります。

コスト削減は、IT 関連費用を除く全ての主要カテゴリーにおいて達成されました。IT 関連費用は、当行の改革戦略に基づきテクノロジーおよび管理体制への支出を継続するという当行のコミットメントを反映して、2019 年はほぼ横ばいとなりました。

報酬費用は、2019 年に常勤相当で 4,100 人を超える人員削減を行ったことを一部反映して、2019 年通年および第 4 四半期の双方において減少しました。2019 年末時点の人員は、常勤相当で 87,597 人となり、これは人員を 90,000 人未満にするという当行がこれまでに発表した目標に沿ったものとなりました。

専門家サービス報酬もまた、非報酬関連費用の厳格な管理を反映して、2019 年通年および第 4 四半期の双方において減少しました。

戦略の迅速な実施を反映した改革の影響額

当行は、予定通りに改革による影響額を計上してきています。当行は、2019 年 7 月の開始から 2022 年までの改革実施のための想定費用総額の 70% を 2019 年に計上しました。この想定費用は、主に資本に影響を及ぼさないソフトウェアの減損および償却に関連して、従前の想定額から約 4 億ユーロ増加されました。

改革に関連する影響額には、約 11 億ユーロの改革費用（主にソフトウェア無形資産の減損および償却ならびに不動産関連費用）のほか、約 10 億ユーロののれんおよび無形資産の減損、約 7 億ユーロの改革に関連する再編および退職費用ならびに 28 億ユーロの繰延税金資産の評価調整額が含まれています。

¹ **改革費用**は、調整済コストに含まれる費用で、2019 年 7 月 7 日に発表された新戦略による当行の改革に直接関連する費用です。この費用には、改革に関連するソフトウェアおよび不動産の減損、資産処分に関する弁護士費用、ならびに株式セールス/トレーディング事業に関するソフトウェアの四半期償却額および義務負担付契約の引当金が含まれます。当行グループおよび各部門の改革費用は、当行のウェブサイト www.db.com/quarterly-results で公表されている、2019 年第 4 四半期/通年の補足財務データの 15 頁から 22 頁に記載されています。

² **改革に関連する影響**は、2019 年 7 月 7 日に発表された新戦略による財務上の影響です。これらの影響には、改革費用、2019 年第 2 四半期におけるのれんの減損、ならびに 2019 年第 3 四半期以降の再編及び退職費用が含まれます。前述の税引前の項目に加え、税引後ベースの改革に関連する影響には、前述の項目に関する税効果（資産ベース）および当行グループの改革に関連する繰延税金資産の評価調整額が含まれます。当行グループおよび各部門の改革に関連する影響は、上記の当行ウェブサイトにて公表されている、2019 年第 4 四半期/通年の補足財務データの 15 頁から 22 頁に記載されています。

³ **特定収益項目**は、一般的に通常の事業の性質または範囲外にあり、部門別業績の正確な評価を歪曲させてしまう可能性のある項目を指します。当行グループおよび各部門の特定収益項目、および報告された収益と特定項目を含まない収益との比較は、上記の当行ウェブサイトにて公表されている、2019 年第 4 四半期/通年の補足財務データの 15 頁から 22 頁に記載されています。

⁴ **調整後税引前利益（損失）**は、IFRS に基づく税引前利益（損失）を特定収益項目、改革費用、のれんその他の無形資産の減損ならびに再編および退職費用で調整して算出されます。当行グループおよび各部門の報告ベースの税引前利益と調整後税引前利益との比較は、上記の当行ウェブサイトにて公表されている第 4 四半期/2019 年通年の補足財務データの 15 頁から 22 頁に記載されています。

⁵ **調整済コスト**は、IFRS に基づき、利息以外の費用から、(i) のれんその他の無形資産の減損、(ii) 正味の訴訟費用、(iii) 再編および退職費用を控除して計算されます。当行グループおよび各部門の利息以外の費用、調整済コストおよび改革費用を含まない調整済コストの比較は、上記の当行ウェブサイトにて公表されている第 4 四半期/2019 年通年の補足財務データの 3 頁から 11 頁に記載されています。

⁶ 本項目に関する詳細は、本リリースの 4 頁に記載されています。

グループ業績概要

特に表示がない限り 単位:百万ユーロ	2019年 第4四半期	2018年 第4四半期	変動額	増減 (%)	2019年 通年	2018年 通年	変動額	増減 (%)
純収益:								
内:								
コーポレート・バンク(CB)	1,291	1,353	(62)	(5)	5,264	5,263	1	0
インベストメント・バンク(IB)	1,520	1,344	176	13	6,961	7,467	(506)	(7)
プライベート・バンク(PB)	1,986	2,077	(91)	(4)	8,245	8,641	(396)	(5)
アセット・マネジメント(AM)	671	514	157	31	2,332	2,187	146	7
コーポレートおよびその他(C&O)	59	(8)	68	N/M	155	(120)	274	N/M
キャピタル・リリース・ユニット(CRU)	(179)	294	(473)	N/M	208	1,878	(1,670)	(89)
純収益合計	5,349	5,575	(226)	(4)	23,165	25,316	(2,151)	(8)
信用損失引当金繰入額	247	252	(5)	(2)	723	525	199	38
利息以外の費用:								
報酬費用	2,691	2,903	(212)	(7)	11,142	11,814	(672)	(6)
一般管理費	3,317	2,637	680	26	12,253	11,286	966	9
のれんおよびその他無形資産の減損	(0)	0	(0)	N/M	1,037	0	1,037	N/M
再構築費用	387	102	285	N/M	644	360	283	79
利息以外の費用合計	6,395	5,642	753	13	25,076	23,461	1,615	7
税引前利益(損失)	(1,293)	(319)	(974)	N/M	(2,634)	1,330	(3,965)	N/M
法人所得税費用	191	90	101	113	2,630	989	1,641	166
純利益(損失)	(1,483)	(409)	(1,075)	N/M	(5,265)	341	(5,606)	N/M
非支配株主に帰属する純利益	35	17	18	110	125	75	50	68
ドイツ銀行株主およびその他の資本構成要素に 帰属する純利益(損失)	(1,518)	(425)	(1,093)	N/M	(5,390)	267	(5,657)	N/M
その他の資本構成要素に帰属する純利益	83	82	1	2	328	319	9	3
ドイツ銀行株主に帰属する純利益(損失)	(1,602)	(507)	(1,094)	N/M	(5,718)	(52)	(5,666)	N/M
普通株式等 Tier 1 資本比率	13.6 %	13.6 %	0.1 ppt	N/M	13.6 %	13.6 %	0.1 ppt	N/M
レバレッジ比率(完全適用ベース)	4.2 %	4.1 %	0.1 ppt	N/M	4.2 %	4.1 %	0.1 ppt	N/M
レバレッジ比率(段階的導入ベース)	4.3 %	4.3 %	(0.0) ppt	N/M	4.3 %	4.3 %	(0.0) ppt	N/M
貸出金(貸倒引当金の控除前、単位:十億ユーロ) ¹	434	405	30	7	434	405	30	7
預金(単位:十億ユーロ) ¹	572	564	8	1	572	564	8	1
従業員数(常勤相当) ¹	87,597	91,737	(4,140)	(5)	87,597	91,737	(4,140)	(5)

N/M:意味のある比較不能
¹ 四半期末時点

事業部門別の業績

コーポレート・バンク (CB)

2019年 第4四半期の純収益は、報告ベースおよび特定収益項目の影響を除外したベースの双方において、前年同四半期から5%減少し、13億ユーロとなりました。

グローバル・トランザクション・バンキングの収益は、2019年 第4四半期における小規模な一時的項目の減少(信用損失引当金の戻入額の減少や投資収益が発生しなかったことを含む。)を主に反映して、前年同四半期から6%減少し、9億4,200万ユーロとなりました。キャッシュ・マネジメントの収益は、低金利の影響を受けたものの、預金構成の変化や、2019年 第4四半期の途中から導入された預金金利の階層化およびプライシング施策により一部相殺されました。貿易金融の収益は、仕組み商品の減少および保険金受け取りの減少を反映して、若干の減収となりました。証券サービスの収益は、当行の株式トレーディングからの撤退の影響を受けました。コマーシャル・バンキングの収益は、マイナス金利の影響が貸出金の増加により一部相殺されましたが、前年同四半期から2%減少し、3億5,000万ユーロとなりました。

2019年 通年の純収益は、2018年とほぼ同水準の53億ユーロとなりました。キャッシュ・マネジメント、貿易金融および法人信託・取次ぎサービスにおける増収は、証券サービスにおける減収により相殺されました。かかる減収は、2018年にはあった売却益が2019年には発生しなかったことや、株式トレーディングからの撤退の影響を主に反映したものです。コマーシャル・バンキングの収益は、貸出金の増加や手数料収入の増加を反映して、2018年から4%増加しました。

2019年第4四半期の**利息以外の費用**は、前年同四半期から38%増加し、13億ユーロとなりました。これには、1億5,400万ユーロの改革費用ならびに1億2,300万ユーロの退職および再編費用が含まれています。改革費用を除く調整済コストは、テクノロジーおよび内部管理体制への支出の増加や内部サービスコストへの配分の増加を反映して、前年同四半期から12%増加しました。2019年通年の利息以外の費用は、1億6,000万ユーロの改革費用、1億5,000万ユーロの退職および再編費用ならびに4億9,200万ユーロののれんの減損を反映して、2018年から26%増加し、48億ユーロとなりました。

2019年通年の**信用損失引当金**は、いくつかの特定項目を反映して2018年から増加し、2億8,600万ユーロ（貸出金の24ベーシスポイント）となりました。

税引前利益：コーポレート・バンクは、2019年第4四半期に、1億700万ユーロの税引前損失を計上しました。改革費用ならびに再編および退職費用の影響を調整したベースでは、1億7,000万ユーロの税引前利益となります。2019年通年では、1億3,700万ユーロの税引前利益を計上しました。上記の影響や、のれんの減損および特定収益項目の影響を調整したベースの税引前利益は、2018年は13億ユーロであったのに対し、2019年は9億3,900万ユーロとなりました。

コーポレート・バンク (CB) 業績概要

特に表示がない限り 単位:百万ユーロ	2019年 第4四半期	2018年 第4四半期	変動額	増減 (%)	2019年通年	2018年通年	変動額	増減 (%)
純収益:								
グローバル・トランザクション・ バンキング	942	998	(56)	(6)	3,842	3,901	(59)	(2)
コマーシャル・バンキング	350	356	(6)	(2)	1,422	1,362	60	4
純収益合計	1,291	1,353	(62)	(5)	5,264	5,263	1	0
信用損失引当金繰入額	104	87	17	20	286	145	141	97
利息以外の費用:								
報酬費用	269	261	9	3	1,044	1,035	9	1
一般管理費	906	668	238	36	3,169	2,780	389	14
のれんおよびその他無形資産の 減損	(0)	0	(0)	N/M	492	0	492	N/M
再構築費用	119	11	107	N/M	137	31	106	N/M
利息以外の費用合計	1,294	940	354	38	4,842	3,846	996	26
非支配株主持分	0	0	0	N/M	0	0	0	N/M
税引前利益(損失)	(107)	327	(433)	N/M	137	1,273	(1,136)	(89)
資産合計(単位:十億ユーロ) ¹	228	215	13	6	228	215	13	6
貸出金(貸倒引当金の控除前、 単位:十億ユーロ) ¹	118	113	5	5	118	113	5	5
従業員数(フロントオフィス常勤相当) ¹	7,428	7,353	75	1	7,428	7,353	75	1

N/M:意味のある比較不能
¹ 四半期末時点

インベストメント・バンク (IB)

2019年第4四半期の**純収益**は、前年同四半期から13%増加し、15億ユーロとなりました。特定収益項目を除くと、収益は22%増加しました。

債券および為替 (FIC) セールス/トレーディングの収益は、31% (特定収益項目を除くと34%)増加し、12億ユーロとなりました。クレジット・トレーディングは、フローおよびディストレストの事業成長により大幅な増収となりましたが、外国為替の収益は、ほぼ横ばいでした。金利およびエマージング・マーケット・デットは、前年同四半期から大幅な増収となり、金利関連事業の収益は、取引環境の改善や顧客フローの増加を受けて、2019年第3四半期比および前年同四半期比の両方とも倍増に近い増加となりました。**オリジネーションとアドバイザー**の収益は、12%減少し、3億4,000万ユーロとなりました。債券オリジネーションの収益は27%の増収でしたが、2019年第3四半期では好調だったアドバイザーの大幅な減収が、この増収を上回りました。

2019年通年の純収益は、2018年から7%、特定収益項目の影響を除外したベースでは3%減少し、70億ユーロでした。FICセールス/トレーディングの収益は債券オリジネーション同様にほぼ横ばいでしたが、アドバイザーと株式オリジネーションの収益はいずれも減少しました。

2019年第4四半期の**利息以外の費用**は、前年同四半期から5%増加し、16億ユーロとなりました。1億3,700万ユーロの改革関連費用を除く調整済コストは、前年同四半期から7%、2019年通年では前年から6%減少しました。この減少は、フロント・オフィスの人員削減およびそれに伴う報酬費用の削減、サービスコスト配分の削減、および非報酬関連費用の厳格な管理によるものです。2019年通年の利息以外の費用は、改革関連費用が2億1,400万ユーロあったものの、2%減少し、64億ユーロでした。

2019年第4四半期の**信用損失引当金**は、貸出金に対する割合が20ベースポイントでしたが、2019年通年では14ベースポイントと、低い水準を維持しました。

税引前利益：インベストメント・バンクは、2019年第4四半期に、7,100万ユーロの税引き前損失を計上しました。改革費用、再編および退職費用、および特定収益項目の影響を除外したベースでは、2019年第4四半期は1億3,600万ユーロの税引前利益となりました。2019年通年の税引前利益は、4億3,300万ユーロで、上記の影響を除外したベースでは8億6,300万ユーロでした。

インベストメント・バンク (IB) 業績概要

特に表示がない限り 単位: 百万ユーロ	2019年 第4四半期	2018年 第4四半期	変動額	増減 (%)	2019年通年	2018年通年	変動額	増減 (%)
純収益:								
債券および為替(FIC)								
セールス/トレーディング	1,188	909	280	31	5,534	5,646	(111)	(2)
株式オリジネーション	37	39	(2)	(6)	123	184	(61)	(33)
債券オリジネーション	260	205	55	27	1,117	1,145	(27)	(2)
アドバイザー	44	144	(100)	(70)	366	456	(90)	(20)
オリジネーションおよび アドバイザー	340	388	(48)	(12)	1,606	1,784	(178)	(10)
その他	(8)	48	(56)	N/M	(179)	37	(217)	N/M
純収益合計	1,520	1,344	176	13	6,961	7,467	(506)	(7)
信用損失引当金繰入額	38	45	(7)	(15)	109	70	38	54
利息以外の費用:								
報酬費用	621	614	8	1	2,468	2,666	(199)	(7)
一般管理費	867	847	20	2	3,763	3,650	113	3
のれんおよびその他無形資産の 減損	0	0	0	N/M	0	0	0	N/M
再構築費用	65	24	41	169	169	200	(31)	(15)
利息以外の費用合計	1,553	1,484	69	5	6,401	6,517	(116)	(2)
非支配株主持分	0	0	(0)	(40)	20	24	(4)	(18)
税引前利益(損失)	(71)	(185)	114	(62)	433	856	(423)	(49)
資産合計(単位: 十億ユーロ)¹	503	458	45	10	503	458	45	10
貸出金(貸倒引当金の控除前、 単位: 十億ユーロ) ¹	75	65	10	16	75	65	10	16
従業員数(フロントオフィス常勤相当) ¹	10,095	9,960	135	1	10,095	9,960	135	1

N/M: 意味のある比較不能
¹ 四半期末時点

プライベート・バンク (PB)

2019年第4四半期の純収益は、前年同四半期から4%（特定収益項目の影響を除くと2%）減少し、20億ユーロとなりました。

プライベート・バンク（ドイツ）の収益は、金利による預金マージンの圧縮、資金調達のコスト配分および資産の売却の利益が薄かったことから7%減少しました。この減少は、主に住宅ローンからなる新規顧客への20億ユーロの貸出金による7四半期連続の貸出金の増加により一部相殺されました。**プライベート・アンド・コマーシャル・ビジネス（インターナショナル）**の収益は、貸出しおよび投資商品の大幅増が金利改定と相まって3%の増収となり、マージンの圧縮の影響を相殺しました。**ウェルス・マネジメント**の収益は、サル・オッペンハイムの従来のワークアウト業務に関する収益が1,400万ユーロ減少したこと、および前年同四半期にあったサル・オッペンハイムの財産売却による4,000万ユーロの利益の発生がなかったことに起因して、3%の減収となりました。これらの影響を除外したベースの収益は、市場の改善および戦略的雇用を反映して、11%の増加となりました。

2019年通年の純収益は、2018年から5%減少し、82億ユーロとなりました。特定収益項目を除くと貸出金の増加や手数料収入の増加に金利改定が加わったことにより2%の減少でしたが、低金利環境の逆風により大部分が相殺されました。

2019年の**信用損失引当金**は、貸出金に対する割合が15ベースポイントで、安定した状態を維持しました。

2019年第4四半期の利息以外の費用は、前年同四半期から10%増加し、22億ユーロとなりました。改革関連費用を除く調整済コストは、組織再編の効果および厳格なコスト管理を反映して前年同四半期から5%減少し、18億ユーロとなりました。2019年通年の利息以外の費用は、2019年第2四半期に行った5億4,500万ユーロののれんの減損費用、1億5,800万ユーロの退職および再編費用、および1億9,100万ユーロの改革費用を反映して、8%増加し、82億ユーロとなりましたが、改革関連費用を除く調整済みコストは、主にプライベート・バンク（ドイツ）における約2億ユーロの合併によるコストシナジー効果を反映して4%減少しました。

税引前利益：プライベート・バンクは、2019年第4四半期は2億8,300万ユーロの税引前損失となりました。改革関連費用、再編および退職費用、ならびに特定収益項目の影響を調整したベースでは、2019年第4四半期は4,500万ユーロの税引前利益となりました。2019年通年では、2億6,500万ユーロの税引前損失となりました。上記の影響やのれんの減損費用の影響を調整したベースでは、2019年通年は5億2,400万ユーロの税引前利益となりました。

プライベート・バンク (PB) 業績概要

特に表示がない限り 単位:百万ユーロ	2019年 第4四半期	2018年 第4四半期	変動額	増減 (%)	2019年 2019年通年	2018年 2018年通年	変動額	増減 (%)
純収益:								
プライベート・バンク(ドイツ)	1,209	1,295	(86)	(7)	5,116	5,453	(337)	(6)
プライベート・アンド・コマーシャル・ビジネス (インターナショナル) ¹	358	349	9	3	1,442	1,441	1	0
ウェルス・マネジメント	419	433	(15)	(3)	1,687	1,748	(61)	(3)
純収益合計	1,986	2,077	(91)	(4)	8,245	8,641	(396)	(5)
内:								
純利息収益	1,260	1,334	(74)	(6)	5,133	5,217	(84)	(2)
手数料およびフィー収益	748	628	120	19	2,925	2,826	99	4
その他の収益	(21)	115	(137)	N/M	187	598	(411)	(69)
信用損失引当金繰入額	119	114	5	5	342	347	(5)	(1)
利息以外の費用:								
報酬費用	867	931	(64)	(7)	3,519	3,613	(93)	(3)
一般管理費	1,118	971	148	15	3,978	3,932	46	1
のれんおよびその他無形資産の 減損	(0)	0	(0)	N/M	545	0	545	N/M
再構築費用	165	52	113	N/M	126	49	77	155
利息以外の費用合計	2,150	1,954	197	10	8,168	7,593	575	8
非支配株主持分	(0)	(1)	(0)	(43)	(0)	(0)	(0)	N/M
税引前利益(損失)	(283)	11	(293)	N/M	(265)	701	(966)	N/M
資産合計(単位:十億ユーロ) ²	283	289	(6)	(2)	283	289	(6)	(2)
貸出金(貸倒引当金の控除前、 単位:十億ユーロ) ²	230	221	9	4	230	221	9	4
運用資産(単位:十億ユーロ) ²	487	451	36	8	487	451	36	8
従業員数(フロントオフィス常勤相当) ²	37,266	38,415	(1,149)	(3)	37,266	38,415	(1,149)	(3)

N/M:意味のある比較不能

¹ ベルギー、インド、イタリアおよびスペインでのオペレーションが含まれる。

² 四半期末時点

アセット・マネジメント (AM)

2019年 第4四半期の純収益は、前年同四半期から31%増加し、6億7,100万ユーロ、2019年通年の純収益は前年から7%増加し、23億ユーロとなりましたが、これらは主要商品分野であるマルチ・アセットおよびオルタナティブにおける運用報酬の大幅な上昇によるものでした。信託報酬は、2019年 第4四半期では前年同四半期から若干増加、2019年通年ではほぼ同水準となりましたが、これらは4四半期連続の純資金流入がマージン圧縮の影響を相殺したことによります。

2019年第4四半期の**利息以外の費用**は、前年同四半期から3%増加し、4億3,800万ユーロとなりました。改革関連費用の2,100万ユーロを除く調整済コストは、報酬費用の増加および2018年にあったサービス・プロバイダーへの配分のプラスの調整の発生がなかったことにより、9%増加し、4億1,900万ユーロとなりました。2019年通年の利息以外の費用は、報酬費用の増加が専門家サービス報酬におけるコスト削減やマーケティング費用の削減により相殺されたことにより、ほぼ同水準でした。

2019年 第4四半期の**税引前利益**は、1億7,700万ユーロとなり、前年同四半期の3倍でした。改革関連費用や再編および退職費用の影響を除外したベースでは、2019年 第4四半期の税引前利益は2億200万ユーロでした。2019年通年の税引前利益は、2018年から27%増加し、4億6,800万ユーロ(上記の影響を除外したベースでは5億3,900万ユーロ)でした。

2019年 第4四半期の純資金流入は、120億ユーロで、4四半期連続で純資金流入を計上しました。2019年通年では、マルチ・アセット、オルタナティブおよびパッシブの各主要商品分野からのプラスの流入を受け、2018年の230億ユーロの純資金流出に対して、250億ユーロの純資金流入となりました。アセット・マネジメントは、3~5%の目標に沿った形で、4%のプラスの純資金流入率を達成しました。

運用資産は、2019年に1,030億ユーロ、率にして16%増加し、7,680億ユーロとなりました。この増加は、市場パフォーマンスおよび純資金流入の両方によるもので、主要な商品が予想を超えるパフォーマンスを見せたほか、モーニングスターのレーティングによる4つ星および5つ星を得たファンドの数が2019年にさらに増えたことによります。

アセット・マネジメント (AM) 業績概要

特に表示がない限り 単位:百万ユーロ	2019年 第4四半期	2018年 第4四半期	変動額	増減 (%)	2019年通年	2018年通年	変動額	増減 (%)
純収益:								
マネジメント・フィー	552	521	32	6	2,141	2,115	26	1
運用報酬および取引フィー	104	23	80	N/M	201	91	111	122
その他	15	(30)	45	N/M	(10)	(19)	9	(48)
純収益合計	671	514	157	31	2,332	2,187	146	7
信用損失引当金繰入額	1	0	1	N/M	1	(1)	2	N/M
利息以外の費用:								
報酬費用	210	210	1	0	832	787	45	6
一般管理費	230	211	19	9	851	929	(78)	(8)
のれんおよびその他無形資産の 減損	0	0	0	N/M	0	0	0	N/M
再構築費用	(2)	7	(9)	N/M	29	19	10	51
利息以外の費用合計	438	427	11	3	1,711	1,735	(23)	(1)
非支配株主持分	55	27	28	103	152	85	68	80
税引前利益	177	59	118	199	468	368	99	27
資産合計(単位:十億ユーロ) ¹	10	10	(0)	(1)	10	10	(0)	(1)
運用資産(単位:十億ユーロ) ¹	768	664	103	16	768	664	103	16
従業員数(フロントオフィス常勤相当) ¹	3,924	4,013	(89)	(2)	3,924	4,013	(89)	(2)

N/M: 意味のある比較不能

¹ 四半期末時点

コーポレートおよびその他 (C&O)

コーポレートおよびその他においては、2018年第4四半期は1億900万ユーロの税引前損失であったのに対し、2019年第4四半期は1億5,400万ユーロの税引前損失となり、2019年通年では、2018年の4億3,300万ユーロの税引前損失に対し、2億2,900万ユーロの税引前損失となりました。四半期に関するこのマイナスは主に、資金移動にかかる当行の価格設定フレームワークにより、一定の資金調達コストが管理部門の負担とされることになったことで、資金調達コストや流動性費用が増加したことによります。評価および期間差異によるプラスの影響の増加は、訴訟費用の増加により相殺されました。

2019年通年の税引前損失の減少は、主に、評価および期間差異による収益の増加によるものでしたが、訴訟費用の増加や資金調達コストおよび流動性費用が増加したことにより一部相殺されました。

コーポレートおよびその他 (C&O) 業績概要

特に表示がない限り 単位:百万ユーロ	2019年 第4四半期	2018年 第4四半期	変動額	増減 (%)	2019年 通年	2018年 通年	変動額	増減 (%)
純収益	59	(8)	68	N/M	155	(120)	274	N/M
信用損失引当金繰入額	(1)	(2)	1	(38)	0	1	(0)	(84)
利息以外の費用:								
報酬費用	663	758	(95)	(12)	2,836	3,079	(242)	(8)
一般管理費	(395)	(629)	234	(37)	(2,320)	(2,656)	336	(13)
のれんおよびその他無形資産の 減損	0	0	0	N/M	0	0	0	N/M
再構築費用	0	(1)	1	N/M	40	(1)	41	N/M
利息以外の費用合計	269	129	140	108	556	421	135	32
非支配株主持分	(54)	(27)	(28)	104	(173)	(109)	(64)	58
税引前利益(損失)	(154)	(109)	(45)	41	(229)	(433)	204	(47)
従業員数(常勤相当) ¹	27,679	29,463	(1,784)	(6)	27,679	29,463	(1,784)	(6)

N/M:意味のある比較不能

¹ 四半期末時点

キャピタル・リリース・ユニット (CRU)

2019年第4四半期末における**レバレッジ・エクスポージャー**は、1,270億ユーロとなり、主に株式のポートフォリオを全般的に削減したことにより、2019年の目標を130億ユーロ下回ることができました。これは、2018年末の2,810億ユーロに対して、2019年通年で55%削減したことになります。

リスク・ウェイトド・アセットは、2019年末において目標であった520億ユーロより60億ユーロ少ない460億ユーロとなり（2019年第3四半期末には560億ユーロ）、2018年末の720億ユーロからは36%減少となりました。

2019年第4四半期の**純収益**は、1億7,900万ユーロのマイナスとなりました。これはおおむね想定範囲内で、時価評価、ヘッジおよびリスク削減コストにより、マイナスの影響を受けました。2019年通年の収益は、事業撤退に伴い収益の発生がなかったことおよび上記の影響を反映して、前年から89%減少して、2億800万ユーロとなりました。

2019年第4四半期の**利息以外の費用**は、2019年第3四半期から10%減少して、6億9,100万ユーロとなりました。改革費用を除く調整済コストは、11%減少して4億9,700万ユーロでした。これは主に、事業撤退当初における人員削減を反映したものです。2019年通年の利息以外の費用は34億ユーロで、2018年とほぼ同水準でした。

2019年第4四半期の**税引前損失**は、8億5,600万ユーロとなり、2019年通年では、改革関連費用の5億1,000万ユーロならびに再編および退職費用の1億5,700万ユーロの影響を含め、32億ユーロの税引前損失となりました。2019年第4四半期および2019年通年のいずれの税引前損失も、経営陣の期待を上回る結果でした。

キャピタル・リリース・ユニット (CRU) 業績概要

特に表示がない限り 単位:百万ユーロ	2019年 第4四半期	2018年 第4四半期	変動額	増減 (%)	2019年通年	2018年通年	変動額	増減 (%)
純収益	(179)	294	(473)	N/M	208	1,878	(1,670)	(89)
信用損失引当金繰入額	(14)	9	(22)	N/M	(14)	(36)	22	(61)
利息以外の費用:								
報酬費用	60	131	(71)	(55)	443	635	(192)	(30)
一般管理費	592	569	22	4	2,811	2,652	159	6
のれんおよびその他無形資産の 減損	0	0	0	N/M	0	0	0	N/M
再構築費用	40	7	32	N/M	143	62	81	132
利息以外の費用合計	691	708	(17)	(2)	3,397	3,349	49	1
非支配株主持分	(0)	0	(0)	N/M	1	1	1	136
税引前利益(損失)	(856)	(422)	(434)	103	(3,177)	(1,435)	(1,742)	121
資産合計(単位:十億ユーロ) ¹	259	370	(111)	(30)	259	370	(111)	(30)
従業員数(フロントオフィス常勤相当) ¹	1,205	2,534	(1,329)	(52)	1,205	2,534	(1,329)	(52)

N/M: 意味のある比較不能

¹ 四半期末時点

本リリース記載の数字はすべて暫定的かつ未監査です。2019年の年次報告書および Form 20-F は 2020年3月20日に公表される予定です。

ドイツ銀行について

ドイツ銀行は、個人顧客、中小企業、事業法人、各国政府および機関投資家に対し、リテール・バンキング、プライベート・バンキング、コーポレート・バンキング、トランザクション・バンキング、融資および資産運用の商品およびサービス、ならびに焦点を絞った投資銀行業務を提供しています。ドイツ銀行は、欧州に深く根ざしつつグローバル・ネットワークを有するドイツ有数の銀行です。

将来の事象に関する記述はリスクを伴います

本リリースには、将来の事象に関する記述が含まれています。将来の事象に関する記述とは、歴史的事実ではない記述であり、ドイツ銀行の考えや予想、およびその基礎となる前提が含まれます。これらの記述は、ドイツ銀行グループの経営陣が現在入手可能な予定、推定および計画に基づいています。従って、将来の事象に関する記述は、あくまで当該記述がなされた日現在のものであって、当グループはこれらの記述に関して、新しい情報や将来生じた事象があっても、これを更新して公表する責任は負いません。

将来の事象に関する記述は、その性質上リスクおよび不確実性を含みます。従って、いくつかの重要な要因が作用して、実際には将来の事象に関する記述に含まれるものとは大きく異なる結果となる可能性があります。これらの要因には、ドイツ、ヨーロッパ、米国および当グループが収益の相当部分を上げ、資産の相当部分を有するその他の地域における金融市場の動向、資産価値の推移および市場のボラティリティ、借り手または取引相手による将来の債務不履行、当グループの経営戦略の実施、当グループのリスク・マネジメントの方針、手続および方法への信頼性、ならびに米国証券取引委員会 (SEC) への情報開示に関連するリスク等が含まれます。このような要因については、SECに提出した当グループの2019年3月22日付年次報告書 (Form 20-F) の「リスク・ファクター」の表題のもとで詳しく記載されています。当該報告書の写しは、請求により入手可能であり、また www.db.com/ir からダウンロードすることができます。

GAAP 以外の財務的測定尺度の使用について

当報告書、および当行が発行しているまたは発行する可能性があるその他の報告書には、GAAP以外の財務的測定尺度が含まれています。GAAP以外の財務的測定尺度とは、当行の過去または将来の経営成績、財政状態またはキャッシュ・フローの尺度です。この尺度は、当行の財務諸表においてIFRSに従って計算および表示された

最も直接に比較可能な尺度に含まれる（から除外される）金額を除外する（含める）調整を含む場合があります。当行のGAAP以外の財務的測定尺度の例としては、また、最も直接に比較可能なIFRSの財務的測定尺度の例としては、以下をご参照ください。

GAAP以外の財務的測定尺度	最も直接に比較可能なIFRSの財務的測定尺度
ドイツ銀行株主に帰属する純利益	純利益
特定項目を除く収益	純収益
調整済みコスト、改革関連費用を除外した調整済みコスト、改革関連費用およびBNPパリバへのプライム・ファイナンスの譲渡の費用を除外した調整済みコスト	利息以外の費用
調整済み税引前利益	税引前利益
有形株主資本利益率、平均有形株主資本利益率、有形帳簿価額、平均有形帳簿価額	株主持分合計（帳簿価額）
平均株主持分合計利益率（税引後）（ドイツ銀行株主に帰属する純利益に基づく。）	平均株主持分合計利益率（税引後）
平均有形株主資本利益率（税引後）	平均株主持分合計利益率（税引後）
基本的流通株式1株当たり有形純資産、基本的流通株式1株当たり資産	基本的流通株式1株当たり資産

GAAP以外の財務的測定尺度の詳細および最も直接に比較可能なIFRSの財務的測定尺度を得るために行われた調整については、補足財務データ（英文）の3頁から11頁および15頁から27頁の記載をご参照ください。